

令和2年度 看護部目標

看護部

1. 病院経営への参画

1) ベッドの管理を行うことができる（退院調整を行う）

最低目標	162床 (90%)	4階：52床	53床
		3階：54床 (3西：27床・3東：27床)	58床
↓			
目標	171床 (95%)	2西：27床	29床
		2東：31床	32床

*医療療養病棟：医療区分2・3 60%以上を保つ
(4階)

*回復期病棟2：新規入院患者の内、看護必要度B項目が30%以上であること
(2東)：在宅復帰率70%以上であること

*回復期病棟3：新規入院患者の内、看護必要度B項目が20%以上であること
(3階・2西)：在宅復帰率70%以上であること

*老人保健施設：稼働率97% (97床)・ベッド回転率5%以上
(加算型) 復帰率30%以上

*在宅部門：通所1500人以上・ショート17床以上
グループホーム18床維持

*訪問看護：契約者120人以上 訪問100%

2) 節電・節約をする

*病室の照明の調節

2. 専門知識を高め看護・介護水準の向上

1) 地域包括ケアシステムを理解し活用が出来る

2) クリニカルラダーが活用出来る

3. 職場環境の改善

1) 業務を定時に終了する

2) お互いを褒めあう場づくりをする

3) 年5日の年休を計画的に取得する

外 来

外来目標	1) 節電をし、消耗品の節約をする 2) 外来患者数の増加に努める	1) クリニカルラダーレベル1を獲得する 2) 地域包括ケアシステムに沿った看護の提供が出来る	1) 職場の問題点を把握し、検討改善できる 2) 報告・相談・連絡をしっかりと行う
成果目標		成果指標	
業務目標	クリニカルラダーレベル1の獲得	学研ナースングサポート研修 ①必須項目の研修獲得 ②必須項目以外の研修獲得 ③看護技術チェック項目の獲得	
	地域包括ケアシステムを把握し、患者様個々に適切な看護を提供できる	①地域包括ケアシステムを知る ②患者様個々の情報を把握する ③看護提供 ④評価	
	職員の生活習慣病対策として催し物の計画を検討し実施する	①生活習慣対策の希望を把握 ②計画案を検討する ③計画の実施 ④評価	
	心身共に充実した職場の確保	①意欲を持って患者様に応じた看護の提供が出来る ②問題点の提議と解決が出来る ③心身にゆとりを持って働き易い職場になる	

2階西病棟

病棟目標	1. 回復期病棟3の基準をクリアできる 2. 一人一人が診療報酬・病院経営を意識し、業務を遂行する	1. 受け持ち看護師として入院時から退院後の生活を考え患者に寄り添いケア・看護が提供できる 2. クリニカルラダーを活用し自己研鑽を行い、目標達成に努める	1. スタッフ間で声掛けを行い、業務の分散、定時出退を行う 2. お互いが働きやすい環境を作りストレスのない職場を作る
成果目標		成果指標	
業務目標	回復期病棟3の基準をクリアできる	①重症度 20%以上 ②在宅復帰率 70%以上 ③病床数 29床以上	
	病院経営を意識しコスト削減に努める	①適切なベッドコントロール ②IA数の減少 ③物品を壊さない・照明調整	

	受け持ち看護師として入院時から退院後の生活を考え患者に寄り添いケア、看護が提供できる	①入院時より退院後を見据えた計画評価の実施
	クリニカルラダーを活用できる	①目標達成のための面接（相談・指導・評価）
	定時出退ができる	①時間外勤務が減少する
	お互いが働きやすい環境を作る	①リフレッシュ・有給休暇が平等に取得できる ②病棟会の開催

2階東病棟

病棟目標	①回復期病棟入院料 2 基準値クリア ②回復期リハ病棟 10 項目宣言に基づいた病棟生活の援助やケアプランの導入を行い、退院後の生活を見据えた医療の提供を行う	①e ラーニング等活用し自己研鑽に努める ②各認定スキルや委員会などの知識等、病棟内に伝達でき、浸透出来る	①NO 残業 DAY（入院受けや急変時以外は定時に帰宅） ②誕生日休暇 & 有休 5 日以上/人取得 ③感謝を相手に言葉で伝える事が出来る
	成果目標		成果指標
業務目標	回復期病棟入院料②基準値のクリア	①重症度 30%以上が 7 割以上 ②在宅復帰率が 70%以上 ③平均病床数 32 床	
	回復期リハ病棟 10 項目宣言に基づいた病棟生活の援助やケアプランの導入を行い、退院後の生活を見据えた医療の提供を行う	昼ミーティングでケースカンファレンスを行い、病棟スタッフが担当患者以外の情報を共有できる(1 ケース以上/日)	
	コスト管理を行う	①こまめな節電 ②物品の見える化 (在庫数・必要数の明記・使用期限の明記)	
	クリニカルラダーの活用 研修の参加 (e ラーニング活用)	e ラーニングの活用 個人が興味をもつ分野で自己研鑽に努めることが出来実践で活かすことが出来る 目標管理シートと共に個人の能力に応じた支援が行える	
様々な勤務形態者が働きやすい職場作りの推進	①NO 残業 DAY 設定 ②誕生日休暇・希望有休取得		

3階病棟

病棟目標	回復期リハビリ病棟Ⅲの基準を保つ	患者が安心して活動できる安全な環境調整を行う	ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を目指す
------	------------------	------------------------	---------------------------

成果目標		成果指標
業務目標	入院患者数増加かつ回復期リハビリ病棟Ⅲの基準を保つ 病床数58床 重症度20% 在宅復帰率70%	西29床 東29床 計58床 (R2年平均:西25 東24) 重症度を考慮した入院調整と病室確保 入院時より自宅退院を意識した段階的目標設定
	患者が安心して活動できる安全な環境調整を行うとともに生活の流れの中でADLを評価し多職種と協働する	患者の安全確保や健康状態についての実態把握と情報共有 ①転倒転落フィードバック ②誤薬フィードバック ③褥瘡・皮膚トラブル FIM 評価内容をカンファや記録に反映 看護記録 記録の充実と退院カルテ早期返却 ラジオ体操レク活動 リハ訓練以外の楽しみ活動提供 看護研究
成長目標	新クリニカルラダーの活用 病棟職員全員が自身の現状を認識し課題を明確にできる 目標達成にむけ課題解決のための具体的プランを立て実行できる	個人目標の明確化と行動評価 学研学習サポート実施 (学びなおしによる知識の向上)
	病棟全職員の健康づくりと安全管理により継続的な質の高い看護実践を行う	①情報を共有できる良好な関係性の構築 ②計画的有休取得(5日/年)

4階病棟

病棟目標	成果目標	成果指標
1) 病床管理を行うことが出来る	①師長またはコーディネーターが緊急・予約入院が受け入れられるよう患者の状態に応じた病室の調整を行う ②師長が連携室と毎日(10時)電話による入院調整を図り、医師と情報共有を行う	①医療区分2・3の患者が60%を目指す ②病床数52床維持
2) 入院時より退院調整ができる	①受け持ち看護師が中心となり、患者の状態の安定を目安に、多職種と患者家族が希望する退院支援ができる ②退院先未定患者一覧表を活用しMSWと連携し退院先を支援する事ができる	患者の安定時の退院100%を目指す

	③退院支援を受け持ち看護師からミーティング時に発信する	
1) 日中、病室照明の調節を行う 2) コスト意識を持つ	①チームリーダーは日中、照明の電気を消し、自然光で過ごせる ①中材係・物品係は物品の過請求または在庫物品を抱えない ②中材係・物品係は、物品の定数表示を8月までに行い、無駄をなくす	自然光を取り入れ、カーテンで採光調整を図る 期限切れ（不良在庫）の物品を0%にする
1) 患者が在宅生活しやすい退院支援を行うことが出来る 2) 新クリニカルラダーを熟知し、継続的に学習が出来る	受け持ち看護師は、在宅退院前に、患者・家族と相談し、生活環境、服薬、栄養指導の調整を行うことが出来る 看護師・准看護師は新クリニカルラダーを熟知し、ラダーⅠを合格する	在宅退院患者の指導件数を100%にする クリニカルラダー合格率 80%以上
1) 時間内に仕事を終わらせる 2) 明るい職場づくりのための今日一日の目標発表をする 3) 年5日の年休を計画的に取得する	①業務の効率化を図るために、病棟会で検討する ②病棟業務の見直しを行う。委員会のメンバーが中心となり学習会を行う（6月記録・8月業務・10月事故・12月感染・2月褥瘡） 輪番で日勤者が就業前に、今日一日の目標を発表し笑顔で仕事が出来ると 計画的に年休を取得できる	①病棟会 1回/月開催 ②学習会を実施し業務を確認する 発表 100%/年 取得率 100%

在宅総合支援センター

目的	利用者サービスの質の向上に努める	
目標	1. 年1回、救急蘇生法の勉強会の開催を継続する 2. 看護職・介護職に対する面談を行い問題解決に努める 3. ホームページを見直し、更新する	
	成果目標	成果指標
業務目標	1-1) 救急蘇生法の勉強会は、在宅部門の看護職員が講師を務め介護職員へ指導する	10月：看護職員の打合わせ資料作成・予定表作成 11月：勉強会開催
	2-1) 通所・ショート・グループホームの看護職・介護職との面談を行う	①面談計画表作成 ②面談実施

	3-1) 居宅・通所・ショートの責任者及び担当者と話し合い内容を検討する。センター長、看護部長、院長兼苑長の承認を得て次長へ依頼する（次長は業者へ依頼する）	グループホーム
		ショート・居宅

感染対策小委員会

委員会目標	1. 感染対策を実施する事で感染症を予防し、感染症発症時の費用を削減する	
	2. 年1回の院外研修へ出席をし、知識・技術のレベルアップを図る	
	3. 擦式アルコールの使用量が増加する 1日1人当たりの使用量が増加する	
	成果目標	成果指標
	業務目標	1. マニュアルの改訂を随時行う
2. マニュアルの内容把握		①マニュアルの内容が理解できる ②マニュアルの内容を伝達できる ③毎月1項目の議題で勉強会を行う
3. リンクナースとして活動できる		①各部署での問題点を提議出来る ②問題点を検討解決出来る ③スタッフに対してモデルになれる
4. 擦式アルコールの使用量が増加する 1日1人当たりの使用量を5ml以上にする		①訪室・退室時にはアルコールを使用する ②処置の前後でアルコールを使用する
成長目標	5. 研修に参加し、スキルアップを図る	
		①春と秋の全体研修に参加する ②研修後に伝達出来る

事故対策小委員会

委員会目標	医療安全管理体制の整備 ・マニュアルの見直し ・医療事故報告の分析、対応策が具体的に記入出来、各部署で活かすことができる	年2回の院内研修開催と委員の研修（医療安全研修・eラーニング含む）参加が増え、委員の意識を高める	・院内ラウンドを行い、各部署に見合った指導が出来る ・KYTの視点を日々の援助の中に取り入れられるようになる ・センサーマットの番号管理・パソコン内整理
	成果目標	成果指標	
業務目標	・医療事故報告書の提出がスムーズに出来、原因、対策が具体的に記入できる	各部署で報告書の提出期限を決定。各部署ごとの目標を決め、各月評価を行う	

	<ul style="list-style-type: none"> ・離院マニュアルの作成 ・身体拘束マニュアルに沿った看護計画立案、観察シートの使用統一 	<ul style="list-style-type: none"> ①書類の確認、観察シート、看護計画立案評価の確認を委員で行う ②離院・離苑マニュアルの整備（病院・施設）
	<ul style="list-style-type: none"> ・実践に即した KYT ラウンド 	リハビリ施設や老人施設、病棟、外来等に合わせたラウンドが行える。実際の現場で具体的な KYT 指導が出来る
	センサーマットの整備	一般共有での番号管理
成長目標	医療安全研修の開催 2 回/年行い、伝達が委員で行う事が出来る	院内参加者・委員による伝達講習 100%目指す
	院外研修の参加・e ラーニング含む参加（委員）	委員会内で研修の呼びかけ委員の 50%以上の研修参加を目指す

記録改善委員会

委員会目標	業務内で効率よく看護記録が行える アセスメント能力の向上 マニュアルの活用が出来る	
	成果目標	成果指標
担当目標（担当目標）	【フローシートの作成】 入院時から一貫した看護が見えるフローシートの作成 担当：石井	<ul style="list-style-type: none"> ①回復期用のフローシート作成 ②医療療養病棟のフローシート作成
	【フローシートの活用】 ①入院診療計画書と看護計画、フローシートの連動が出来る。（看護計画、ケアの実践・評価まで一貫した看護過程の展開を行う。 担当：2階東西	<ul style="list-style-type: none"> ①フローシート書き方マニュアルの見直しが出来 ②フローシートの運用開始が出来る
	【回復期看護計画の活用】 回復期の看護計画を活用して計画を立てることが出来る。 担当：3階東西	<ul style="list-style-type: none"> ①2東：症例をとる ②見直し ③修正 ④活用方法のマニュアル化 ⑤周知のための勉強会
	【カルテ見本の見直し】 医師指示簿迄の見直しを完成する。 担当：外来	<ul style="list-style-type: none"> ①カルテ順番の見直し ②活用方法の表記
	【書き方マニュアルの見直し】 担当：4階	<ul style="list-style-type: none"> ①入院時 ②退院時 ③転倒時 ④急変時

看護業務改善委員会

委員会目標	看護及び介護の業務が適切・円滑に行えるように手順の見直しを行う。 患者が安心して入院生活を継続することができ、自己のケアの振り返り、環境の改善が実施できるよう満足度調査を行う。	
担当目標	業務目標	成長目標
	担当の看護手順の見直しが期限内に出来る 満足度調査を行う	看護手順に沿って、適切な看護、介護ができる 満足度調査を行うことで改善、情報共有ができる
業務目標	成果目標	成果指標
	①セルフカテーテル導尿 ②胃瘻造設後の管理（バルン式） ③胃瘻造設後の管理（ボタン式）	2東
	①糞便採取法 ②胃瘻造設 ③下部消化管内視鏡検査	外来
	満足度の実施	①満足度調査実施・回収・集計 ②病棟、院内情報共有 ③改善策検討 ④院内掲示
	①酸素吸入 ②静脈内注射法 ③酸素吸入	幸楽苑
	①中心静脈注射（CVカテ） ②イレウスチューブの挿入	4階
	①定期処方箋の取り扱いと関連業務 ②定期処方箋の流れ ③定期処方箋の変更 ④定期処方箋の中止・変更	3東
	退院チェック表	3西
	①患者の状態報告 ②浣腸 ③高圧浣腸	2西

褥瘡対策小委員会

委員会目標	褥瘡予防、早期発見、早期治癒 へ向け効果的な対策ができる	早期治癒に向けて知識・技術の 向上をはかる	褥瘡対策マニュアルの見直し
-------	---------------------------------	--------------------------	---------------

成果目標		成果指標
業務目標	褥瘡発生症例写真をもとに客観的な評価を行い早期治癒に向けた意見交換ができる	①各部署からの報告書を基に褥瘡患者状況を月末に集計 ②(入院時)「褥瘡対策に関する診療計画書」作成、提出、看護計画 確認 ③②の内容から褥瘡やスキンケアの予防対策検討 ④体圧分散寝具の保有・使用数と適正使用について確認
	多職種での検討を行いより具体的な対策を検討	①看護(スキンケア、処置)栄養管理 ②リハビリ ③それぞれの専門知識を共有
	褥瘡対策マニュアルの見直し	必要書類の確認と評価
成長目標	勉強会実施	①院内合同研修会 ②テーマ別検討会(実施部署がテーマを決定) ③赤十字病院主催研修参加

看護教育委員会

【全体目標】

1. 教育委員は、看護教育委員会の運営と企画行事に、積極的に参加できる
 - 1) 事前に配布された看護教育委員会検討課題を、熟読して出席できる
 - 2) 看護教育委員会で提示された課題の期日を守る
 - 3) 当院新クリニカルラダーの運用に対し、教育委員として意見を述べるができる

【各担当目標】

<新人担当>

2. 教育担当者(看護主任)として、新人看護職員及び実地指導者(プリセプター)のサポートをする
 - 1) 前期(8月)後期(1月)の2回、グループ面接を実施する
 - 2) 看護技術チェックリストの進捗情報を確認し(年4回 5月、8月、11月、3月)、声掛けを行う
3. 看護教育マニュアル「看護技術チェックリスト」の見直しをする
 - 1) 5 清潔・衣生活援助技術 ⑥陰部洗浄

<クリニカルラダー担当>

4. 新クリニカルラダーの運用を開始し、運用状況の確認と見直しを行う
 - 1) 新クリニカルラダーのファイル「新ラダーマニュアル」を作成する
 - 2) 新ラダーの運用方法を、対象看護職員へ説明・伝達する
 - 3) オンデマンド講義の受講状況を年4回(5月、6月、9月、12月)把握する

- *教育担当者のアカウントを使う
- 4) 9月の中間評価後に、運用開始後の実施状況とレベル認定申請者数を確認する
- 5) 認定委員会終了後、クリニカルラダーレベルⅠ評価表の、自己評価・他者評価・総合評価の状況と認定者数を把握する
- 6) 認定委員会終了後、運用について対象看護職員へ意見を聞き、問題点の見直しをする

- 5. ラダーレベルⅡの認定に必要な書類を作成する
 - 1) 学研ナーシングサポート必須受講カード レベルⅡ
 - 2) 学研ナーシングサポート任意受講カード レベルⅡ
 - 3) クリニカルラダー認定審査結果票（レベルⅡ）

<看護研究担当>

- 6. 看護研究が計画通り遂行できるようにサポートする
 - 1) 教育委員会でスケジュールの伝達と進捗情報を報告する
 - 2) 倫理委員会提出書類の流れと書き方についてサポートする
 - 3) 対面指導をレポートにし、助言内容の振り返りができるようサポートする
 - 4) 看護研究発表に関わる準備と司会進行ができる

<院内研修担当> 中途採用研修担当

- 7. 中堅看護師の看護の質向上のために、年間を通して研修を実施する
 - 1) 急変対応についてシミュレーション研修を実施する（3東・2東病棟）
 - 2) 施設における急変対応について、シミュレーション研修を実施する（幸楽苑入所5・6階）
 - 3) 正常心電図（基礎編）の研修を実施する
 - 4) 異常心電図の研修を実施する
 - 5) 訪問看護・通所看護を学ぶ研修を実施する

看護補助者 教育委員会

目的	看護補助者に対し、知識・技術の向上を図る	
目標	1. 「看護補助者 業務評価表」の見直しを図る	
	成果目標	成果指標
業務目標	実務と「看護補助者業務マニュアル」の整合性を確認する	整合性を共有できる
	「看護補助者業務評価表」の見直しを実施する	「看護補助者業務評価表」の見直しを完了する

介護教育委員会

- 1) 採用者の研修計画に沿って研修会を行い、指導・評価の実施
 - ・研修計画書に沿って研修会が行える
 - ・年間指導計画表の見直し

- ・介護業務マニュアルに沿って指導・評価することができる
- 2) 介護職員の教育を行い、介護の質向上を図る
- ・介護教育委員会内での勉強会を計画・実施し、各部署で伝達を行う
 - ・体位変換のテクニック実技・評価を行う
 - ・各部署での問題点など情報共有する

診療連携室

連携室目標	安定した病院経営が出来る病床数を維持する 回復期病棟・療養病棟の算定条件を維持する	地域包括ケアシステムを理解し、当院の役割を發揮する 地域の医療機関・施設・介護支援サービスとの連携に努める	お互いに情報共有に努め相談のしやすい職場環境にする 残業を減らし、計画的に有給休暇をとる
	成果目標		成果指標
業務目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数 160 床以上を維持するよう入院調整に努める ・斑の無い退院調整に努め、回復期の在宅復帰率 70%を保つ 		①患者紹介・入院面談後 10 日以内の転院調整を目指す②回復期病床数 108 床以上、療養病床 52 床以上を維持するよう入退院調整に努める③回復期病棟の要件を維持できるよう調整する（重症割合 20%・30%以上、在宅復帰率 70%以上）
	<ul style="list-style-type: none"> ・各医療機関・施設との情報交換を密にし連携強化に努める ・研修会・情報交換会に参加する ・地域包括ケアシステム・社会資源他の情報を更新し 患者・家族に情報提供していく 		①3 か月に 1 回程度、紹介医療機関を訪問し、情報交換し、顔の見える連携に努める ②各医療機関の地域連携パス会議に、それぞれ年 3 回参加する ③患者・家族・スタッフに情報提供する
	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の面接を定期的に行い、職場環境の改善に努める ・相談し合える環境を整え、ストレス解消に努める 		①月 1 人（定期）、臨時（必要時）で職員面談を行う ②有給休暇の計画を立て、年 5 日以上取得する ③時間内に業務を終えるよう努力し、必要な残業のみ申請する

訪問看護ステーション

部署目標	訪問看護ステーションの収益を前年度同様に維持する	訪問看護の質の向上を図る	業務を定時に終了する 年 5 日以上を計画的に取得する
	成果目標		成果指標
業務目標	病院経営の参画 ・新規依頼を断らない ・1 人の利用者に対し複数名で関わり訪問調整しやすい状況をつくる		①平均契約者数 120 名/月、 ②実績 670～700 件/月を維持する ③事業所側の都合で予定訪問を休まない

根拠に基づいたケアが出来る ・クリニカルラダーを活用しスタッフが計画的に活動できる ・訪問看護師としての知識、技術を共有しスタッフの訪問看護師としてのスキルアップを図る	①目標に沿った研修参加計画が 100%実施できる ②クリニカルラダーレベル I に全員が合格する ③2 か月ごとに事例に基づいた勉強会を実施する
他職種連携を図る ・サービス担当者会議以外の会議や研修会に参加し情報交換する	①他職種が参加する会議・研修会に参加する
業務を定時に終了する ・地域ごとの訪問を調整し移動時間の短縮を図る ・複数名の関わりにより訪問調整する	①記録・報告書作成による時間外業務が減少する
年 5 日の年休を計画的に取得する ・前月に休み希望を確認し、訪問調整を行う	①年 5 日以上の有給取得ができる

幸楽苑

病棟目標	①安定した施設経営を図る ②コスト意識を持つ	①療養環境の整備	①クリニカルラダーを活用し目標管理が行える ②キャリアアップを図る	①業務環境の整備 ②年 5 日の有休を計画的に取得する
成果目標		成果指標		
老健機能加算型を維持できる ベッドコントロールを行う		①在宅復帰率 30%以上 ②入所稼働率 97%以上 ③ベッド稼働率 5%以上 ④在宅復帰在宅療養支援等指標 40 点以上		
コスト管理を行う		①物品や中材物品の定数管理を行い過請求や在庫物品を抱えない ②おやつ・飲み物類の見直し		
利用者の在宅支援機能を充実させる		①利用者満足度調査の実施 ②サービス担当者会議の充実（家族の参加率 60%以上） ③利用者の自立機能訓練・日常生活上のケアの充実 ④行事内容の充実と利用者家族との連携強化		
クリニカルラダーの活用 院外研修の参加促進 病棟勉強会の実施		①目標管理シートに沿い個人の能力に応じた支援ができる ②1 回/年以上の院外研修に参加し、伝達講習を行う 参加率 50%以上 ③年間計画を立てて毎月実施する		
ヒヤリハット報告の増加とインシデント・アクシデント件数の減少		①ヒヤリハット報告書を活用して事故の予防と情報共有することで再発防止に努める 報告件数の提示 ヒヤリハット報告件数 1 割増（昨年 232 件） インシデント報告件数 1 割減（昨年 78 件）		
業務の見直し		①業務マニュアルの見直し・役割マニュアルの整備 ②5S 活動の徹底（整理・整頓・清潔・清掃・躰＝習慣）環境係毎月点		

	検
パートナーシップを持ち相互に協働できる	①接遇マナーの徹底 挨拶の徹底 ②リフレッシュ休暇取得率 50%以上または有休休暇年 5 日取得

令和2年 6月 文責：看護部